

## 村川市兵方へ遣ス書状之写

尚々去々年村川大分之損被仕由候  
間、大屋渡海一番用捨來ル丑ノ

番より大屋殿御渡し可然候半哉、能様  
御相談可被成候、以上

大屋九右方被罷越候間、一筆  
令啓上候、夏中御越候へ共何之

御馳走も不申、今更御残多存候  
道中無異儀御越、弥御在

宅候哉、無心元候、此表別条無之  
旦那一紋無事、拙者躊も無

恙候間可安御心候、然者竹嶋

近所之小島へ小船渡海之儀  
去年貴様被仰候ハ、大屋九右衛門

方ハ同心無之候間、貴様計にて  
可遣哉と被申候間、其節我等

申候ハ当分同心無之ても定而  
所務も有之候、大屋も渡度与

被申にて可有之候、口上ニてハ無  
同心と申分ハ実儀共不被存候

其内ハ貴様計御渡し可被成哉と  
申置候、今度九右衛門殿被參被申候ハ

市兵衛同意ニ小船渡海仕

度旨候、拙者挨拶仕候ハ尤  
左様可有之と存候、然共去々

年村川大分之損仕由候、因茲  
先来年も村川船遣し、大屋

渡番來ル丑寅両年より  
九右方渡し、夫より如例両人ニて

順々ニ御渡し可然候、彼島草

木も無御座少之所別之所務  
無之、みち油取申一種之由候

於然者互事六ヶ敷無之様御談  
合可被成候、恐惶謹言  
右之通村川市兵方へ申遣候

為念案書懸御日候、以上

龜山庄左衛門

九月八日

□□（花押）

大屋道臺様